

1 まちづくり懇談会 飯地

日時：平成 29 年 11 月 2 日（木）午後 7 時～8 時半

場所：飯地コミュニティセンター

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 飯地の人口は平成 17 年に 823 人。これが順に減り、今 660 人。世帯数は 233 から若干増え 240。平成 17 年を 100 とすると、飯地は 19.8%減。毎年 2%減っている。ここより減っているのは上矢作。飯地はかなり深刻な減少。出生数は、6、4、2、4、3、4、3、26 年は 0、27 年は 3、28 年は 5。少ないが何とか保っている。26 年は残念だったが、何とか増やしていけるといい。恵那市全体では、飯地町、出生数 6 人に対して 5、恵那市はこう減っている。飯地は増えたり減ったりしている。

飯地について昨年あったこと。有償運送の飯地里山バス。今日もありがとうございます。僕が初めて公式行事で参加させていただいたのはテープカットの 12 月 3 日、里山バスの発足式だった。運行開始は 10 月 3 日から。

定住促進住宅は 3 戸あり、今 1 組が入居されている。2 組は空いている。

飯地中野方線道路改良。平成 29 年度は測量と丈量。事業費 2600 万円。中野方側の改良を今測量と設計をしている。飯地町 58 号線改良事業。改良済みが 26、7、8 で、29 年度に 85m、350 万円を行った。飯地町 68 号線は、既に完了した区間も含め、27、8、9 でいくつか概略設計、詳細設計、用地、立木をやり、工事は来年度以降で、全体で 5500 万円。新丸山ダム。皆様の中にも 4 月の起工式に来られた方があると思う。ありがとうございます。夏には東京の陳情にもご足労いただいてありがとうございました。29 年度は 51 億円ちょっとの予算がつき、転流工に着工しているし、これから加速度的に 418 号の付け替え国道もやっていきたいと国も言っている。私どもも皆様方と一緒に、名古屋、事務所、東京への陳情を繰り返していく。手応えは悪くない。これに合わせて五明工区で県の今年度補正予算が決まり、9 月予算で 4 千万円の工事が発注できる。第 3 工区も若干手を入れるとか。いくつかできるところをやっていきたいということだ。飯地の皆様の熱い思いとエネルギーのおかげだ。引き続き皆様と一緒に動いていきたい。

テント村。コンサルタントにもお話を聞いたし計画も見せてもらった。可能性がある。今年度 2500、来年度含めて全体で 5 千万円ぐらいの予算が計画されている。成功させ飯

地のまちづくりの核にしていきたい。600 人の笑顔がつくるキャンプ場という素晴らしいキャッチフレーズがある。これが核になり、飯地町全体を楽しんでいただける、お客さんに喜んでいただけるまちづくりができると思う。協力する。

地歌舞伎。恵那市の中でこういった残された施設はここか三郷にしかないので、大事にしていくべきだ。皆様は歌舞伎が上手なので守っていききたい。特に地歌舞伎には岐阜県が大変力を入れている。海外への展開も図っている。注目されている。

農業。飯地の農地は 149ha で、耕作放棄地が 13ha、8.7%。恵那市全体よりはるかに少ない。飯地の皆さんは頑張っている。ただ、これから先は考えていかないといけない。これからどうやって農業を守るか、稼ぐか、考えていかないといけない。高原なので、高原野菜は単価が上がるので、418 号で美濃加茂まで道がつながったときどこに売りにいこうかという夢を持って先へ進んでいきたい。

笠周振興計画。いくつかの項目を飯地町単独で考えている。テント村。補助金は 29 年度は交付済みで実施中。五毛座のトイレ、駐車場は完了。観光マップも完了。活性化の協力隊は 1 名配置している。飯地中野方線、勢井後橋は設計、事業の一部着手。68 号線は設計が完了しており事業は今後予定している。恵那八百津線の改良は県事業で今年 2 カ所で実施する。

引き続きご意見をいただきたい。

5. 意見交換

■司会 たくさんの方に意見をいただきたいので 1 人 1 回でできるだけ簡潔にお願いしたい。前もって名前を言ってほしい。

■飯地小学校 P T A 会長・大沢 恵那市でも真剣に取り組んでいただいているということが説明でよく分かった。飯地小学校は児童数も減り 25 人で非常に少ない中頑張っている。1、2 年前に笠周地区の小学校を統合する動きがあったと聞く。そういったことはないという話も聞こえてくる。小学校が町からなくなると若い人が子育てできず定着しないし流出する。子育て環境のいいところにどんどん行ってしまっていて、その結果人口が減り高齢化率が上がるという悪循環になる。教育委員会と県との話もあると思うが、飯地町の将来を考えていただき、そういう動きにならないようにしてほしい。それが子どもたちのためだけでなく飯地町全体の人口減少の歯止め、ゆくゆくは発展ということにつながっていく。いろいろ整備して人をどんどん入れていきたいということで、整備など計画いただいているが、人が減っては何にもならない。

あと 1 点、こういうふうに計画を立ててやっているが、数値的な説明がない。将来何年後に何人増やすなどのことはどうか。

■市長 小学校はなくす気はない。地元から言わない限りはこの地域に小学校はあるべき

だ。

総合計画のとき数値目標が出されていたのは、各地域の小学校を維持するために出生数を450と設定した。それが目標だ。実際には300を切ってしまった。すでに2年が経過した。今となっては厳しい目標だ。どこかのタイミングでは見直す。まだその作業にはとても入れていない。

■井手 恵那市の学校教育と少子化対策について。私は小学生の子どもを持つ母だ。恵那で特に少子化という話があったが飯地はその中でもダントツだ。私たちも町民も一生懸命子どもの数を増やそうと移住定住をやっている。

不動産の仕事をしている。東濃の中で土地を探している子どもを持つ世代の人があったが、恵那市の土地を紹介したがよそに土地を買った。学校教育関係の人だった。恵那市はほかの市に比べて教育のレベルがあまり高くはないとおっしゃっていた。ショックを受けた。東濃ではそういうふうに言われているらしい。残念だ。教育のレベルを上げていかないと、少子化対策でも、子育てしやすいとか教育も恵那で受けさせたいと思ってもらえないとダメだと思う。少子化の理由の一つにそういうこともあるのではないか。

教育についてはケチらないでいただきたい。職員の数もだし、教育関係にもお金をかけてほしい。たとえば教育委員会でも、統合のことばかり一生懸命やらずに、教育レベルを上げるために、トップからリフレッシュしていただいて、そういう方向に行ってほしい。

恵那病院に産科もできた。これも維持していかないといけない。子どもの数が増えないとなくなってしまう。そちらも市長と恵那市とで何とかしてほしい。たとえば学力向上のプロジェクトチームで、有名な塾講師を入れて、恵那市の学力向上のためのプロジェクトチームを作ってもらおうとか、山村留学もテレビでやっていたが、小学校のうちだけでも山村留学を受け入れるように市でも制度を考えてくれないか。

■市長 恵那市の学力、教育レベルが低いと言われたのは私もショックだ。何とかしたい。リニアの議論をしていたとき、恵那市にどんなメリットがあるかという議論になった。恵那高校があることが大きなメリットだと言われた。恵那高が進学率が高い、学力が高いということは都会の人にとってメリットになる。そうしたら、恵那高が昨年定員割れをして、中津高が定員をはるかに超えた。これは大きな意味を持つと思っていた。その後、それを見た県の教育委員会が慌てて、中津高の校長を恵那高の校長にした。恵那高は見捨てられていない。

医師から聞いたことだが、今生まれてくる子は必ず何らかの障がいや課題をもって生まれてくるのが非常に多い。この子が何もしないと障がいを持ったまま大きくなり将来ちゃんと働けない可能性がある。ただ、小さいうちに手当をしてちゃんとした処置をすると普通に育つ。片方は福祉の措置が必要だが、小さいうちに手をかけると将来ちゃんと税金を納めてくれる。人づくりは全ての基本だ。まちづくりは人づくりと言われる。大きな

意味での人とはある意味の投資になる。そういう意味では教育に金をケチらないように頑張っていきたい。

もう一つ可能性があるのはIT。弱者はハンディーキャップを持った人に本来使われな
いといけないものだと思う。目が見えない人でもパソコンやスマホがあるからしゃべって
くれるとか。字が書けないけど話しかけたら機械が答えてくれるとか。地形的には不利だ
がスマホがあるから遠くの人とテレビ電話ができるとか。同じように、教育も地理的に離
れているとか子どもが少ないから十分な教育が受けられないのではなく、離れていても光
ファイバーやコンピューターやITがあれば都会と同じ教育が受けられるというのが本来
ITがなすべき役割だし、ハンディーキャップを埋めるためのツールとしてのITという
のは可能性としてある。それも含めて検討を進めていきたい。

■司会 今、北中学校では3年生が300点を超えるという抜群の成績を修めている。

■館林てるよし まちづくりの定住部会をやっている。

飯地町で家を建てたり、借家を建てようとする、水道負担金が52万円になる。大井
だと27万円。市内にもほかにも52万円のところはあるが、アンフェアな気がする。建て
る人の気持ちをそぐ。この地域で建てようという気がなくなる。同じ額にしてもらいたい。
さらに、山村地域なので、そういうところへの補助も欲しいぐらいだが。とにかく27万
円にしてほしい。

人口の下落の歯止めをかけるには住む人を増やさないといけない。住むには家、アパー
トが必要だ。若い人に聞いた話だと、瑞浪市と比べ恵那市には新しい借家が少ない。古い
のしかない。それで瑞浪に住んだという人が結構いる。民間のアパートに対する補助政策
もほしい。特に、山村にアパートを建てるとするのはハードルが高いので、そういうと
ころに対して補助を考えてほしい。とにかく住む場所がない。空き家率は高いという話だが、
貸してもらえないところがない。都会の人が入りやすい建物、アパートがない。市営住宅に
誰でも入れるようにすると、民間が建てやすいように整備してほしい。

■副市長 水道分担金は、笠周地区は合併後にできた。それ以後にも、上矢作町で木ノ実
の水道がある。国の基準があり、合併後、水道の工事費自体が高くなっており、旧恵那市
でやった頃は古い時代なので単価が違っていた。そのままその時代の分担金の考え方を
持ってきた。笠周地域は恵那市の中で非常に高いと聞いている。今は間もなくこの分担金
を一緒にするという協議を始めるところだ。恵那市全体で同じような数字にするつもりだ。

住宅は、瑞浪市との違いは、瑞浪にソニーがあった頃、非常に従業員が多く、住宅の着
工数が多かった。恵那市は、工業団地はできたが、比較的住宅に対する需要がなかったの
で住宅が少なかったのだと思う。瑞浪市ではソニーが撤退したことにより、瑞浪市全体に
空き家が多くなった。住宅の入居するときの賃料が下落してきた。一方、恵那市では住宅
に着手する人がいなかったため、高止まりしている。ほとんどが1室5万円以上になって

いる。このことは恵那市でも非常に大きな問題で、入居する人に、新婚で3年間の補助をしている。なかなか実効が上がっているとは聞いていない。住宅政策は何か考えていきたいが、建てる方への補助は考えていない。入る人に補助をする。

■平井 うちの子どもの下が0人で焦った。3年前から若者サークルを立ち上げ、一時預かりを飯地内で始めたり月に1回イベントをしたりして、若者の交流を深めていこうと地道に頑張っている。

来年度から飯地も学童をお願いしたい。今話を進めている。支援をいただきたい。

出生率は目標が450人で実際が240人ということだ。恵那病院に産科ができたのは大きいと思う。飯地では3、4人産んでいる人が結構いる。3人目で迷っている人がいる。人それぞれ悩みがあり、これをしたから産むという簡単なものではない。長期的に市の中で子育て対策チームを、5年、10年と対策を取っていただき、ここを正念場として、子育てしやすい恵那ということで頑張してほしい。

■副市長 子どもが生まれたらお金を出そうということを一思考えたことがある。2年ほど前。そのときこういう議論があった。子どもが生まれた人だけにお金を出すという施策は、子どものいない、子どもの産めない人にとって非常に負担になるのではという。それで頓挫した。女性からそういう議論があった。それで、結婚したところに10万円の商品券を出すということになった。ただし、今市長と話しているのは、やはり子どもの多いところに何らかの施策が要るのではということだ。

産科では、11月20日ぐらいに第1回の出産があり、今24人ぐらいの分娩対象者があ
る。ぜひ市民病院を利用してほしい。

■市長 人口が増えていた頃は、田舎は都会の後追いをしていた。東京ではこういう問題
が起きた、名古屋ではこういう問題が起きた、住宅が足りないので造った、学校が足り
ないので造った、というのを田舎は後追いしていた。が、今は日本中の人口が減ってい
るので、都会はまだ減り始めていないが、飯地はもう減って何年か経っているので先
進地だ。ここで取り組んだことは成功事例として恵那市全体で共有しないとけないし、
恵那市で成功したことは日本中で取り組まれるかもしれない。そういった意味では、
人口減少社会での片田舎の取り組みはとても大切だと思っている。いろいろ考えてい
きたい。

未来の年表という本がある。日本でこれから起きることが年表形式で書いてある。2020
年には女性の半数が50歳を超える。2024年には全国民の3人に1人が65歳以上。2027
年には輸血用の血液が不足する。2033年には3戸に1戸が空き家になる。2039年には火
葬場が不足する。この中に大事なことが書いてある。3人目の子どもを産むとその子は宝
だと。3人目、4人目まで産む子には1千万円あげてもいいと。そのぐらいあれば3人目
を産む勇気が湧くのではないかと。本当にやるかどうかは、予算の中でのことなので
できるかどうか分からないが、そのくらい思い切ったことをしないとだめかもしれない。これ

から検討していきたい。

■山口 農業のことをお願いしたい。今日は若い人が飯地のことにやる気なので安心して
いる。市長が、地方創生で、金融関係の付き合いがあるということで、JAのことでお願
いする。キャンプ場でお世話になり、米や高原野菜を恵那市に認めてもらうように努力し
たいが、JAにある程度力を借りたい。市からも離れているので。利用が少ないからとい
うことではなく、もっと農業にバックアップしてくれるように、市長からも頼んでほしい。
利用が少ないから先細りするのではなく、行政とJAの関係で力を入れてほしい。年をと
ると介護や福祉でいろいろ問題になる。60歳代の人はまだ元気なのでそういう人たちと
相談している。みんないい意見を持っている。それを上に上げるにはJAの力が要る。J
Aが尻込みしている。

■市長 農業の再生について。この4月の組織改編で、恵那市役所は、今まで経済部の中
に農林課、商工観光課があったが、この4月から農林部を作り、農業と林業を専門に扱う
ことにした。市役所では農業の再生と、農業が恵那市の基幹産業であると思ってやったこ
とだ。JAに対しての要望は、責任をもって申し伝え、応援する。

■西山の各務ひろゆき 市長はどこでもいつもベストでやられており感銘する。

正家で区画整備が始まっている。中身は素晴らしい道路などの計画も、立派な道を造っ
て、活性化の計画をされている。飯地は13町村の中で、毎回こういう場で訴えているが、
最後は道なので、テント村にも大きな予算をいただき、飯地の観光にお金を入れていただ
いている。こちらへ来ていただくにしても、道が怖いということをいろいろな人が言う。
自分も毎日通っているが、昔よりずいぶん良くなったが、今でも、2車線になってないの
でヒヤッとする。雨降りのときなどドキッとすることが毎回ある。通勤している人も観光
客も、2車線ならヒヤッとすることもないだろう。一日も早くそうなってほしい。今まで
地域協議会の役員や市の皆さん、柘植市議がいろいろな努力をされて話を聞いているが、
新丸山ダムの工事也开始まるということで有り難いが、ここから恵那に行くには飯中線が一
番早いので、2車線にしてもらうのが一番いいと思うが、1.5車線だと聞いた。将来的に
は2車線になるということはないのか。

商工会議所の役員も、移動商工会で来られたとき暴風雨で帰れず中野方を回ってタク
シーで帰った。しょっちゅう通行止めになる。通行止めの中で途中で何かあったら遅い。
本当は、崖の方ではなく真ん中の方を開いてもらうのがいい。それは夢で終わるかと思う。
将来的には2車線になるか。

■市長 選挙のときからこの道路の状況は理解しているが地元の熱い熱意も受け止めてい
る。418号、新丸山ダム、県道恵那八百津のことも、国や県の動きがつかめてきた。今国
や県に行っているのは杉浦千畝さんが八百津で注目されていて世界記憶遺産に登録するか
どうかという話がある。リニアの駅からユダヤの人たちが八百津に行けるように道を造る

うと言っている。観光バスが通れる道だ。今は美濃加茂から入り高山、敦賀、ロシアに抜けるというのがルートだそうだ。リニア駅から行くのがゴールデンルートだと思う。飯地中野方線は市道で市の予算では非常に厳しく限りなくゼロに近いが、恵那八百津は一生懸命やる。今は待避所などでやっているが、県はこれから先は調査費も考えたいと言っている。できないとは思わず、私も地域の皆様も、やるんだという強い気持ちで臨んでもらいたい。

■各務 市長は一生懸命やってくれている。理解している。市の予算もあるということだが、県の関係の方を、1cmずつでも早くやってほしい。

■会長 皆さんも今日は来てよかったという感想を持っていると思う。27日に市長に飯地町の要望を13項目出した。みんなが思っていることだ。改めて、もし分からないことがあれば、私も市役所に出向きお話ししたい。ぜひ13項目、時間はかかってもいいので、文書で回答いただきたい。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 平日の夜、寒い中、ありがとうございます。大勢の皆さんに来ていただいた。ほかの地域でも似たような人数だ。人口比率では飯地は大変多い。ご要望は十分受け止め、各部署で検討し1つでも実現したい。今日話せなかったことがあれば、振興事務所に話してほしい。

■自治区副会長・平井しげる 今日は熱心に参加いただきありがとうございます。一番感じたのは、市長がこれからギャップのあるところが先進地になると言われたことだ。市の職員も。飯地の人が陳情に行くと、それは東濃界限でやったことがないからダメだという言葉をもらうことが多い。そうではなく、先進地だという意気込みで、これからも陳情に励む。飯地のことを忘れないでほしい。

■司会 これで終了する。

[閉 会]

1 : 42 : 07